

親のやる気 あつし塾長の 親の気づき

〇〇70



志学塾が通信制高校のサポート部門を始め、6年になります。例年20人ほどの不登校で悩む高校生をお預かりし、進学・就職へと導いています。一般にはなじみのない通信制高校ですが、この制度を利用すれば、高卒認定(旧大検)制度とは違

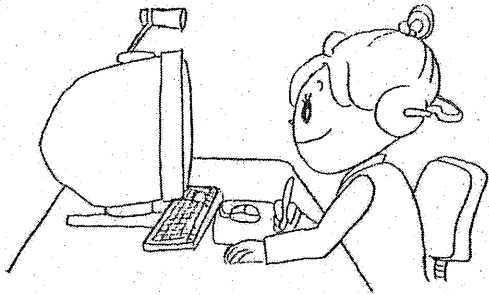
通信制高校

い、3年間の在籍、74単位以上の取得で、全日制と同じ卒業証書を手にできるのです。もちろん本人の目標次第ですが、難関大学をはじめとする進学、そして就職へと進むことができます。

通信制高校を卒業し、親元を離れて大学に通っている子どもたちの体験談をご紹介します。「不登校になり、勉強も将来への歩みも、人間としての成長

「転校」で進路を再構築

根本の話を親から伝えて



も中途半端で止まってしまっている状態でした。しかし、先生方のサポートの下、着々と将来への歩みを取り戻していくことができた(4年制大進学した)「4年制大進学/男子」
「不登校の自分が転校したからといって、何も変わらない」と思っていました。通信制は自分のペースで通えるので本当に良かったです。大学なんて行けないと思っていたのに行けたのは先生方のおかげです(4年生大進学/男子)
「全日制のころは無責任な行動ばかりして、自分の中の壁を乗り越えようとしませんでした」
た。そんな中、通信制への転校は良い機会だと思いました。転校してからはアルバイトで社会経験を積み、自分のことは自分で対処していくようにしました。普段の言動は礼儀がなかったと気付かされ、1年で一気に成長できました(4年生大進学/男子)
このように全日制から通信制への「転校」で、二十歳までに進路の再構築が果たせるのなら、不登校問題では通信制高校を活用するという手段も検討すべきかもしれません。
塾では、先週も全日制に通う高校生が「学校に行っていません。なんなんでしょうね」
ひょう)と話してくれました。私は子どもたちの話を聞きながら、この問題の根の深さ、ご家庭も学校も、多くの方々が対応に苦慮されている実情を思わずにはいられませんでした。
私はかねがね、ゆとり教育世代の子どもの無気力と情緒的混乱を解決する糸口は「なぜ勉強するのか」「どのようないかに社会に貢献するのか」という根本の話を、親から子どもに伝えるという単純な時間の積み重ねにあると思っています。うまくいってもいなくても、その繰り返しの時間に思いが募り、親子の絆は揺るぎないものとなるのではないのでしょうか。

と他人事のものとなるのではないだろうか。
28日午後1時から、八戸市の八戸ポータルミュージアム「はっち」で「不登校フォーラムin八戸」を今年も行います。子育て・教育の有用な情報を提供できればと考えています。お気軽にご来場下さい。
(畑山篤志学塾塾長)

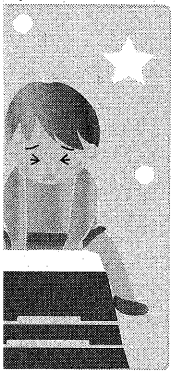
学生の理想は特に女性の割合が低く、野での優秀な課題。女性活支援に力を出てい科学技術女性研究者の割合が13%にとどまり、諸国の3割以下に低い。政府は、国にどの程度、女性研究者の割合が30%に達するまでを目標に掲げ、一方、将に上がる学生の割合を、東京大、薬学・医学部、工学・理系研究科の准教授は「女性、科学者としての犠牲性について研しているイ、」と語る。このため、10、11月の曜、女性研究者をよく知って、め、中学や言生徒や親を研究室で模擬実り、同大の女

教育

スポーツ通し心身成長

保育所の待機児童が問題になっています。その解消にさまざまな取り組みがなされていますが、何か根本的なことが見過

切



く考えてください。ちょっとしたことでも「やればできる」と子どもに懸念されています。精神を育む上でも、子どもたちの運動を促すことは大切です。この連載では、もの本来的な力を引き出す運動のあれこれについて書いていきます。(鈴木威バディ、1歳幼児園園長、)